

発行所
広島市東区二葉の里
2丁目6-25
明星院
TEL 082-261-0551
FAX 082-262-1827

明星院だより

周藤若仙筆



瑞気満堂

暁の光旧年の闇を脱ぎ、曆新年に入る元正の辰、令和六年の新春を寿ぎ謹んでお慶びを申しあげます。

昨年、弘法大師御誕生壹千貳百五十年の吉祥年に当り、お大師様の御恩に報いるべく大師堂・御影堂の落慶法会が盛大に厳修され無魔成満できましたことは無上の喜びでありました。瑞気満堂の通り、めでたく美しい新鮮な気が大師堂・御影堂・本堂・護摩堂は、もとより庫裡にてモニターで参拝された皆様的心中にも法悦の感動が満ち満ちていました。大師堂は、檀信徒の信仰の心の拠り所の道場です。何時でもお大師さまへ会いに来てください。

金剛合掌



『龍上弁財天女像』

長谷川玉峯筆

当山所蔵



甲辰

元旦

《只今募集中》

四国遍路(阿波之国)

大師堂再建御礼参りの旅

◇日程 四月二日(火)～四月五日(金)

(三泊四日)

◇定員 十五名

◇会費 八〇,〇〇〇円

◇申込 三月十五日までに当山へ

(但し、定員になり次第締め切ります)

巡拝日程表	
3/30 (金)	広島駅==<山陽道・瀬戸大橋>==1) 靈山寺==2) 極楽寺 3) 金泉寺==4) 大日寺==5) 地藏寺==7) 十楽寺 8) 熊谷寺 9) 法輪寺==6) 安楽寺(泊)
3/31 (土)	宿坊==10) 切幡寺==11) 藤井寺==17) 井戸寺==16) 観音寺 12) 焼山寺==13) 大日寺==14) 常楽寺==15) 国分寺 18) 恩山寺==みどり旅館(泊)
4/1 (日)	門前宿==19) 立江寺==番外) 慈眼寺穴禅定==20) 鶴林寺 21) 太龍寺==22) 平等寺==ニューサンパレスむろと(泊)
4/2 (月)	宿==番外) 鯖大師==23) 薬王寺==<瀬戸大橋・山陽道>= ==広島駅

※巡拝の順序や旅程は、道路事情、天候等により多少変更されます。

春遍路発心の道場打ち納め



鶴林寺

「懐かしい四国の巡拝を今一度・・・」の多くの声が寄せられました。

春秋二回、二年で結願致します。



太龍寺

コロナ禍で逝く友偲び苦き酒

令和六年

明星院行事予定表

一月一日～三日	修正会・新年初祈禱
一月二十八日	開運厄除祈願節分星祭
三月二十日	春季彼岸会
四月二日～五日	四国八十八ヶ所霊場巡拝
八月上旬	お盆勤め
八月十三日	うら盆施餓鬼会
九月二十二日	秋季彼岸会
十月二十一日～二十四日	四国八十八ヶ所霊場巡拝
十二月八日	赤穂義士討入り大祭

編集後記

☆巻頭の『龍上弁財天女像』は、龍の上立つ弁財天で、大変珍しい尊像で、龍神・弁天どちらも水に関して御利益があるとされ、雨乞いの祈禱の折に拝まれたものと思われる。

☆落慶法要後のほれ話「お堂というよりお大師様に関するミニ美術館ですね」「まるでお大師様のテーマパークだ」

☆思い起こせば、平成二十年高野山学修滝頂で御影堂にて大師拝見の時から描いていた大事業でした。報恩謝徳・稽首礼拝☆六日より寒に入ります。ご自愛をお祈り申しあげます。

昭和五十九年、弘法大師御入定壹百五十年御遠忌を記念して、山主が初大師の一月二十一日より、四十八日間をかけて徒歩巡拝した時、各礼所寺院よりいただいた扇面の納経です。現在では、霊場会規定の納経用紙でしか授与していませんので、他に例を見ない貴重な納経です。併せて高野山奥の院と番外札所十夜ヶ橋と万濃池、京都三弘法の東寺、仁和寺、神光院も荘厳されていきます。

大師堂・御影堂 建立収支報告

収入の部		支出の部	
建立寄附金	24,650,000	大師堂・御影堂 新築工事	71,940,000
荘厳具寄附金	4,840,000	周辺整備 付帯工事	9,220,000
修行大師 結縁志納金	2,130,000	荘厳費	25,313,430
奉納瓦志納金	132,000		
納骨壇使用料 (十三基)	26,000,000		
法要御祝	3,687,000	法要費	3,915,000
当山拠出金	48,949,430		
合計	110,388,430		110,388,430

修行大師結縁者御芳名 伊丹徳勝家 一口 今田淑枝家 二口 青山世治家 一口 同 五口 埴田尚美 一口 圓見崇恵香 一口 三須光 二口	釣灯籠 (丸) (二口一万円) 泉本 淳子 一口	入定大師 伊丹 徳勝 一口 今田 淑枝 一口 小山 和子 一口 三須 光 二口 泉本 淳子 一口	大師堂・御影堂 荘厳具奉納者御芳名 (一口五万円)
--	---------------------------------------	--	--

弘法大師御誕生壹千貳百五十年記念事業
大師堂・御影堂 落成慶讃大法会
 無魔成満

去る十月二十二日、仁和寺門跡代理橋本高諄教学部長を御導師に迎え法類・縁故寺院諸大徳の助法を得て、落慶大法会を厳修いたしました。

先ず、法会に先立って十時より来賓寺院が入堂、次いで梵鐘が鳴り響く中、引頭・職衆僧侶・護摩祈禱師・修行大師開眼供養法師・本堂供養法師・山主・御導師の順に進列し入堂着座、法会が始まりました。此の度の法会次第は、始めての試みとして御詠歌と和讃を中心に組み立てられ、御室金剛講員の澄み渡った声調と美事に揃った所作に参拝者一同感動を覚えました。

この建立は、先代龍生大和尚の悲願でしたが、竣工を見ることなく遷化致しました。その志を引き継ぎこの念願を成就出来ましたことは山主にとりましても望外の喜びとなりました。

ご理解ご協力いただきました檀信徒の皆様には、衷心より御礼申しあげます。





進列する職衆・山主・御導師



大師堂内の職衆・来賓寺院

修法中の御導師



修法大師開眼供養法師

護摩祈禱師

本堂供養法師



結縁者名簿の奉読

護摩修法

本堂金剛講員



庫裡でのモニターにて参拝者

本堂参拝の檀信徒

大師堂莊嚴具の解説

金剛界曼荼羅



胎藏界曼荼羅



開眼供養の箱書



大師像正面の両横に掛けられてある金剛界・胎藏界の両部種字曼荼羅は、五十年前の弘法大師御誕生千二百年（昭和四十八年）に高野山無量光院篤信者の垣野内美妙法尼が金剛峯寺へ浄財を寄進された御札として開眼供養を終えた後拝受されたもので、この度の建立に併せて遺族の長迫博子様より奉納されました。



天井絵



四国八十八ヶ所霊場扇面納経

同じく五十年前の昭和四十八年に先代龍生住職が、四国八十八ヶ所霊場を巡拝した時の掛軸と記念に善通寺管長蓮生善隆宛下より賜った御宝号です。



記念式典並びに祝賀会
於、鶴羽根神社『二葉』



山主の挨拶



司会の宏雅副住職



慶讃文奉読の山主



御影堂内の御入定弘法大師開眼



代表して沖広監督への授与



設計士・監督・棟梁への感謝状



親族代表胎蔵寺
竹原住職の謝辞



法類代表大聖院吉田僧正の乾杯



来賓寺院代表の高野山
無量光院土生川上綱の祝辞



裏方の手強い 受付と茶事接待の皆さん



総代・建築関係来賓

明星院大師堂・御影堂落慶法要 慶讃文

敬つて真言教主大日如来両部界会諸尊聖衆、殊には本尊千手観世音菩薩、列しては高祖大師遍照金剛、総じては虚空法界一切三寶の境界に白して言さく。

夫れ当山は、今を去る四百八十余年の昔、龜溪元智大禪師により開山され、月光山大日密寺明星院と号し、臨濟宗南禅寺末より真言宗智積院末に転じ、後に仁和寺末に属す。廣嶋歴代藩主の祈願寺として、毛利輝元公・福島正則公・浅野長晟公より浅野本家十二代に亘り帰依を得、外護極めて篤く、芸州隨一の蘭若となれり。藩内五ヶ寺の一つに数えられ、真言宗一派の触頭を務める名刹として四隣の崇敬を蒐め寺門隆昌を極めたり。

しかるに時に隆替あつて、敷地の祝融に遭うて旧觀を失う。即ち、天保年間、失火により一山堂宇を余すことなく灰燼に帰す。爾後、廢仏毀釈・神仏分離の法難を乗り越え、明治大正にかけて嘗々として復興に励み、旧御堂御所仁和寺別院として、泉智等・土宜法龍兩親下を第廿世・第廿一世として迎え、再び伽藍を一新して今法久位の勝計を廻らさる。

然りと雖も、昭和二十年八月六日、原子爆弾の爆風は一瞬にして諸堂宇を倒壊せしめ、仁王門と赤徳義士堂を残して全て焼失せり。

爾來、七十八年同四代にわたる位職は、歴代先師の素願を憶念して懈怠せず精魂を寺門興隆に傾けて今日の隆盛發展を見るに致る。今、その復興を顧みるに、昭和四十九年本堂（蓮華王閣）再建、同五十九年大庫裡全面改築、平成六年護摩堂（阿遮羅殿）、同七年七福神堂・同九年時代相応の教化道場として檀信徒會館（仁風亭）の改修、茶室清鑿庵の造営、同十六年本堂奥殿に位牌堂（壹堂春殿）、同二十七年仁王門再建梵鐘の再鑄・手水舎移転等々、面目を一新し、大師堂の再建を残すのみとなれり。

時恰も本年は、宗祖弘法大師ご誕生毫千貳百五十年の佳年を相迎え、大師堂再建の計成りて昨年一月の起工の運びとなり、加えて新たに御影堂を新築、入定大師尊像・諸弟子像・金剛薩埵・弥勒菩薩を勸請開眼供養し、更に修行大師像を安置し御室前に四圍八十八ヶ所靈場各札所のお砂を載き、遍路一巡のお砂踏み道場として広く利益を頒たんと欲す。

高祖大師曰く「境困なるときは心朗なりと、洪鐘の響機に従つて巻舒し、常樂の覺路ここに開く」と。恭しく本日嘉辰を卜し、仁和寺門跡代理として仁和寺執行御室派教学部長橋本高諱僧正を大導師に迎え、有縁の淨侶を囑請し、高祖大師の来迎を仰ぎ、先師尊靈の照覧のもと落慶供養の大法要を修す。篤信勳力の檀信徒と共に、歡喜曷ぞ堪へん。

仰ぎ願くは、本尊聖者遍照金剛、衲等の微表を嘉納ましまして祈願成就並びに当山の護持雄飛に異鐵を垂れ給はんことを

重ねて乞 伽藍安穩 密教紹隆 弘法大師 倍增法樂 十方檀信 心願成就 乃至法界 平等利益

千時令和五年十月廿二日

月光山大日密寺明星院第廿八世位職
傳燈大河閣梨 惠生 敬白

門跡祝辞

秋気爽やかに壮美の山門を吹き抜け、紅樹色あざやかに新粧の諸堂に映えて、おのずから慶讃を増す好季節、本日ここに吉辰をとり、御当山大師堂・御影堂落慶の盛儀を厳修せられるに当たり、門跡代理として橋本高諱教学部長に祝辞を託し、真言宗御室派を代表して一言祝意を申し述べたく存じます。

私は、平成二十二年より仁和寺執行長・真言宗御室派宗務総長を務めさせていただきましたが、八木恵生僧正には第二次内局発足の平成二十六年より四年間、教学部長として同じ屋根の下、寝食を共にし、宗務に努めて頂きました。教学部は毎年教学基本方針を策定し、その内容を実現すべく全国の御室派関係寺院・教師に発信して布教活動の実践を宣布します。

在籍期間中、特に八木僧正が情熱を注がれたのは、「宗祖 空海への大師号の下賜を上奏された仁和寺岡山宇多法皇の鴻恩と諡号奉賛法要の執行。それを宗典の恒例法要の中に明記したこと」今一つは、「御室流御詠歌の金剛流御詠歌への奉納と御室金剛講の設立」です。唯一の指導者が絶え、正に風前の灯状態であった仁和寺に伝わる御詠歌を高野山とともに歩むことを選択しました。これにより、現在は若手御詠歌教師による布教実践が全国で展開されており、

この度の大師堂・御影堂の荘厳は、それらを具現化したものと聞き及んでおります。今後共、大師信仰のよりどころ、檀信徒の心の安らぎの道場として活用されることと確信しております。

最後に、檀信徒の心やすらぎの道場として活用されることと確信しております。今後共、大師信仰のよりどころ、檀信徒の心の安らぎの道場として活用されることと確信しております。

最後になりましたが、明星院の益々の隆盛と檀信徒の皆様のご多幸を総本山仁和寺より念じ上げ祝辞と致します。

令和五年十月大吉祥日

総本山仁和寺五十一世門跡
真言宗御室派管長
御室金剛講総裁
瀬川大秀



御導師祝辞

御導師による瀬川門跡猊下の祝辞代読の後、この法要によせて造られた短歌を披露された。

**明星に大師のお影向えまませり
有明照らす恵生上人**

明星に大師のお影向えまませり
有明照らす恵生上人
高諱



田村聡一郎総代による事業報告



謝辞を述べる山主



随化布教師によるバイオリン法話

仁和寺本山布教師、大原英揮師による布教が実践される得意のバイオリン演奏を交え、タブレットを使って解りやすく仏教の神髄を解説いただきました。因みに演奏曲は「花は咲く」「愛燦燦」「情熱大陸」最後の「故郷」は皆様の合唱で締めくくりました。



法話終了後の檀信徒内拝



還列の御導師・職衆